

# 出雲のハイテク・石棺式石室

## 石工技術が開いた古墳時代

今からおよそ一七〇〇年から一三〇〇年前、古墳が盛んに造られていた時代に、大形の石材を使う技術が日本で定着し花開きます。出雲でも荒島石、来待石や出雲市塩冶の凝灰岩など、良質な石材が多く採れました。これらの石を使って、非常に美しく立派な石棺や石室が造られました。また石材を産出する山の岩肌には、横穴墓がたくさん造られています。

「こうした」「石を掘る」「石を削る」といふ墓づくりの技術は、当時の石工技術の最先端をいくものでした。

## 石材の宝庫・出雲

良質な石材をたくさん産出する出雲ですが、主な産地は安来市の荒島町、宍道町の来待、出雲市の塩冶町、松江市の大草町です。これらから産出される石の特徴を以下に紹介しましょう。

安来市荒島一帯で採れる凝灰岩を、荒島石と言います。石棺式石室は、荒島石で造られたものが中海周辺の各地に運ばれました。

宍道湖南岸にある宍道町来待一帯で採れる凝灰質砂岩が、来待石です。来待では、現在でも石燈籠造りなどが行われています。

出雲市の塩冶地区一帯も、凝灰岩の産地です。この石は大形の横穴式石室の材として用いられました。この凝灰岩地帯には、上塩冶横穴墓群のような大横穴墓群が造られています。

松江市近辺でも、安部谷横穴墓群のある大草町や大庭町を中心に凝灰岩が採れます。山代方墳や団原古墳など、意宇平野周辺の石棺式石室に使われています。



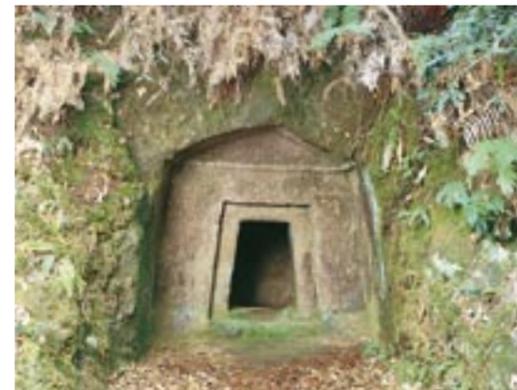
これぞ石棺式石室！（飯梨岩舟古墳：安来市岩舟町）



巨大な石室と石棺  
（大念寺古墳：出雲市今市町）



来待石でできた閉塞石（鏡北廻古墳：宍道町）



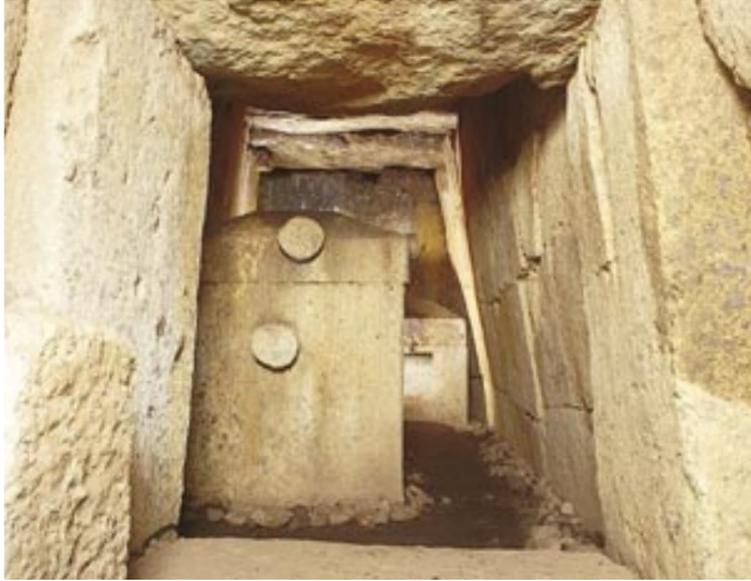
石室づくり工人の墓か？（安部谷横穴墓：松江市大草町）

## 「石棺」それは日本で最初の

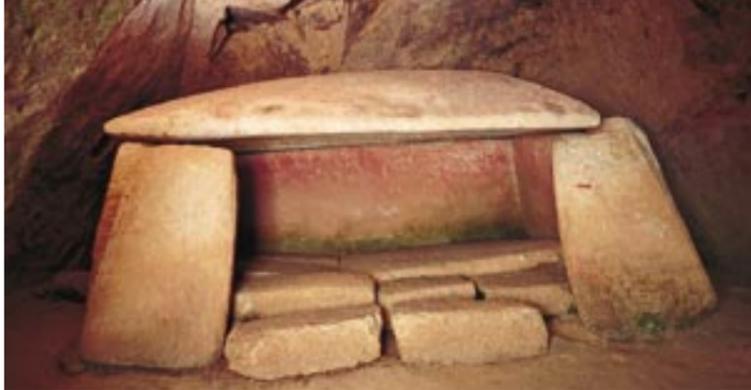
### 石製大形モニュメント

古墳時代の墓に納められている石棺は、大形の石材を使用して造られたわが国で最初のモニュメントです。

出雲では家形石棺と呼ばれるものが、もっとも多く造られています。蓋と本体をそれぞれ一つの石で造っているものと、本体をいくつもの材で組み合わせるものがあります。とくに出雲西部の大念寺古墳や上塩冶築山古墳に納められている巨大な石棺は、当時の高い技術を示しています。なかでも大念寺古墳の石棺の大きさは日本一です。近畿地方で「王者の石棺」と呼ばれる長持形石棺は、島根県では松江市丹花庵古墳の一例しか見つかっていません。来待石を使って造られており、蓋石にはのぎりの



巨大な石室と巨大な2つの石棺（上塩冶築山古墳：出雲市上塩冶町）



荒島石でできた家形石棺（穴神1号横穴墓：安来市吉佐町）



灯明石を持つ家形石棺（宮内II区1号横穴墓：安来市佐久保町）



壁に残るノミの跡

歯のような文様が彫られています。

出雲の石工が造った石棺は、出雲以外の地域からはまったく出土していません。逆に他の地域から持ち込まれた形跡も見られません。

## 出雲石工のハイテクの結晶

### 石棺式石室

出雲石工の作品として欠かせないのは、なんとといっても石棺式石室です。切石を組み合わせた美しい造りには、思わず言葉を失ってしまう。

石棺式石室には荒島石や来待石のほか、意宇平野の凝灰岩や地元の石材が使われました。そういった石材の産地には、石棺式石室と大変よく似た横穴墓が造られています。

す。これらは石棺式石室を造った石工たちの墓ではないかと考えられています。

## 石工の息づかいを残す工具跡

横穴墓や横穴式石室の石をよく観察すると、石工たちの使った工具の跡が残っています。横穴墓は最初に「ミ」状の工具で粗掘りされ、次に形を整える段階で、先がU字形をした鋤のような工具が使われます。そして仕上げに壁に残る凸凹を平オノのようなもので削り、ようやく完成します。

石に残されたのは、「かわらの過程の中でついた跡なのでしよう。横穴墓などに残る工具跡を見ると、狭い横穴の中で懸命に工具を振るう石工たちの姿が浮かんでくるようにです。